

フィクション劇場 第十二話「名前」



「名前」
フィクション劇場（セレクト）
第十二話
大太 大

【はじめに】

○「フィクション劇場」作者の大太 大（お
おた・だい）と申します。つたない作品
にご興味を持って頂き、ありがとうございます。
います。

【フィクション劇場とは】

○作者が世の中で違和感を感じている事や疑問に思っていることなどに対して、「もし、こういう設定や条件になったら、当事者たちはどう動くのか」を考えたオムニバスドラマです。フィルム・バイヤーさんではドラマ部門に全二十五話をまとめて公開しており、それと同様に完全著作権フリーですので、詳細はそちらをご覧ください。マスメディアに少々風が向いている「性根の曲がった社会派ドラマ」で、この第十二話はその中から、作者が是非読んで欲しい脚本をセレクトした話になります。では本編をどうぞ。

フィクション劇場 第十二話「名前」

【登場人物】

菅 藤 雄大（かんとぅ・ゆうだい）（50）：
プロ野球セ・リーグ 東京ジェントルマン
ズ ゼネラルマネジャー（GM）
又 レール・マンコビッチ（27）：プロ野球
パ・リーグ 木更津アポロダイバーズ投手。
背番号69。フランク・マンコビッチの孫

（試合実況）

清 水 健一（しみず・けんいち）（54）：ジ
ャパンCS放送 試合実況

加 藤 孝雄（かとう・たかお）（58）：同 試
合解説

向 井（むかい）（41）：同 ベンチレポート
アナウンサー

（木更津アポロダイバーズ）

村 西（むらにし）（55）：監督

田 所（たどころ）（24）：投手（先発…名前
のみ）

フィクション劇場 第十二話「名前」

遠野（とうの）（22）：投手（抑え…名前のみ）。田所の高校の後輩

鬼頭（きとう）（49）：ゼネラルマネジャー
黒木（くろき）（47）：監督代行（名前のみ）

（ラテックス岡本ピストンズ）

多田原（ただはら）（25）：投手（先発…名前のみ）

軍畑（いくさばた）（27）：多田原の代役投手（名前のみ）

ペペロ・コーガン（68）：MLBオレゴン・オクトパシーズオーナー

男性アナ

女性アナ

司会（入団会見）

記者1

フィクション劇場 第十二話「名前」

記者 2

大日本テレビ記者

大日本テレビカメラマン

コンビニ客

観客 1

観客 2

シエントルマンズ社長

シエントルマンズ職員

対シエントルマンズ実況

対シエントルマンズ解説

【あらすじ】

フランク・マンコビッチの孫ヌレール・マンコビッチが投手としてパ・リーグの木更津アポロダイバーズ（KD）に入団し、開幕から白星を重ね、首位でセ・パ交流戦に突入する。交流戦で対戦する東京ジェントルマンズ（TG）の試合は地上波放送で、TGの社長は名前の変更をGMの菅藤雄大に指示する。

菅藤はKDのGM鬼頭との話し合いの末、マンコビッチの恩人のMLBオーナー、ペペロ・コーガンが容認すれば、変更できる旨の約束を取り付ける。

しかし、コーガンは提案を拒否し、英語で菅藤の名前も呼びにくいが、本人の名前を尊重していると話す。結局、交流戦で菅藤は名前を「マニー」することを強行し、そのせいでKDは本人とチーム共々不調に陥る。

シーズンが終了し、菅藤は名前が英語で読みにくいとの理由でGMから外される。菅藤は能力があればかまわないではないかと嘆く。

○入団記者会見（昼）

後ろには「木更津アポロダイバーズ新
外国人選手入団記者会見」の横断幕。

壇上には周りに花を添えたマイクが2
つ。

向かって左に鬼頭GM、右にヌレール・
マンコビッチ。

マンコビッチの斜め後に通訳。

フラッシュが焚かれる。

事前にマンコビッチの選手プロファイ
ル資料が記者に渡されている。

名前の欄には、英語で「Nullair
e・Mankovitch」、その下に
「ヌレール・マンコビッチ」と書かれて
いるが、微妙に見切れている。

記者1、2は小声で、

記者1「…おい、これ大丈夫なのか？ その
まま読むと、ちょっと…」

記者2「知るか！ オレらは取材するだけだ」
司会「お待たせ致しました。それでは、ただ

いまより、木更津アポロダイバーズ、新外国人選手の入団会見を行います。まず、ご本人から自己紹介をお願いします」

フラッシュが焚かれる。

マンコビッチ「ハジメマシテ。ワタシノ、ナ

マエハ……」

場が一瞬静まる。

全員「……」

マンコビッチ「又レッ・マンツ、ビッチ、デ

ス」

記者1、2「ふう……」

記者には安堵した雰囲気。

マンコビッチ「(英語)日本に来ることが出来て光栄です。私の祖父は、少しだけですが、日本のプロ野球でプレーしたことがあります。祖父からは、日本は素晴らしいところだと聞いており、私もそれを実感しています。日本出身のプレイヤーがメジャーで活躍していますので、レベルの高い野球が求められると思います。早く戦力になれるよ

う、努力していきたいと思います」

通訳は「ハジメマシテ…」から、通訳する。

名前はフルで言うが、通訳の声は小さい。その中、小声で、

大日本テレビ記者「おい、このV使えるのか？」

大日本テレビカメラマン「知るか。音無しで

NA入れるだろうよ」

× × ×

マンコピッチは背番号「69」を見せるように、ガッツポーズで半身になる。

フラッシュが焚かれる。

マンコピッチは、監督とにこやかに写真撮影に応じる。

OTVの野球ニュース（夜）

男性アナ「それでは、今日のプロ野球の結果をおさらいしましょう。まずはセ・リーグから」

セ・リーグの試合結果が出る（左記）。

フィクション劇場 第十二話「名前」

パ・リーグ				
大阪T	3	-	6	青森NE
推川 1勝4敗				優月 1勝5敗
神奈川SJ	3	-	0	岡本P
瀬戸 1勝0敗				上野 2勝1敗
木更津AD	07	-	0	広島M
新外国人 6勝1敗				松本 2勝4敗

パ・リーグの試合結果が出る（左記）。

男性アナ「次はパ・リーグです」

イミ、4勝目。好調をキープしています」

男性アナ「トミー・ジョン手術から復帰の工

で、粘りのピッチング、3勝目です」

男性アナ「ベテランの風間、大量得点の援護

セ・リーグ				
北海道KH	4	-	3	名古屋K
大槻 2勝3敗				三上 2勝1敗
福岡Y	3	-	18	東京G
成瀬 3勝3敗				風間 3勝1敗
愛知D	3	-	9	栃木R
高橋 2勝2敗				エイミー 4勝1敗

フィクション劇場 第十二話「名前」

男性アナ「先ほどお伝えしましたが、ルーキーの瀬戸、初先発でノーヒット・ノーランを達成しました。前評判が高かった選手ですが、期待通りの活躍です。これから楽しみですね」

女性アナ「そうですね」

男性アナ「そして、あっ、表示で『7』の前に『0』が入ってしまっていますが、アポロダイバーズの新外国人投手が、今日も勝って6勝1敗。ダイバーズの首位に大きく貢献しています」

女性アナ「ダイバーズにとっては、この新外国人投手の活躍が優勝への鍵になりそうですね」

男性アナ「はい。この新外国人投手から目が離せませんね」

女性アナ「そうですね。この新外国人投手に期待しましょう」

男性アナ「さあ、明日からの3連戦が終わりますと、いよいよ、セ・パ交流戦に突入で

す」

○コンビニ（夜）

スポーツ新聞に1面に「マンコビッチ
花開く！」の見出し。

ただ、微妙に見切れている。

コンビニ客「お、例の新外国人のヤツか…、
行けそうな感じだな…」

○スピリッツ・フィールド木更津（交流戦前最
後の試合…ナイター）

球場がザワザワしている。

○同 放送席

清水健一と加藤孝雄が並んで座ってい
る。

二人とも中継用のヘッドセットを付け
ている。

清水「ジャパンCS放送をご覧のみなさま、
こんばんは。プロ野球パ・リーグの試合を

お届けするプログラム『ドリーム・イン・パ』

清水「今日は、スピリッツ・フィールド木更津から、木更津アポロダイバーズ対ラテックス岡本ピストンズの試合をお送りしております。解説は加藤孝雄さん、ベンチレポートは向井アナウンサー、実況は清水健一でお届けしております。加藤さん、引き続きよろしくお願い致します」

加藤「よろしくお願い致します」

清水「さて、これから7回の表、ピストンズ、ラッキーセブンの攻撃になります」

加藤「はい」

清水「今日の試合は、ダイバーズ田所、ピストンズ多田原の先発で始まりましたが、ダイバーズが7対0と、大量リードになっています。加藤さん、ここまで無失点の田所の気迫あふれるピッチングが光っていますね」

加藤「そうですね。田所はその気迫が空回り

して、制球を乱すこともあるのですが、今日は田所の決め球のフォーシームがコーナ―に決まっています」

清水「フォーシームはいわゆる昔で言うストリート、ですよネ？」

加藤「はい、そうです。人差し指と中指をボールの縫い目に引っ掛けて投げますが、その指の隙間を狭くするとボールに力を伝えやすくなります」

清水「しかし、田所のピッチングを見ていますと、オールドファンの私としては、当時の阪急プレイブスで抑えとして活躍したアニマル・レスリーを思い出してしまうのですが……」

加藤「そうですね。彼も気迫を全面に出す選手でした。彼は一度オールスターに出場したことがあります。が、画面から見ても分かるくらい緊張していましたね」

清水「そうですね。そういう憎めないキャラクターもあって、引退後はタレントとして

活躍していました」

加藤「はい。アニマルはカーリーヘア、田所はシュツとした角刈りで髪型は違うのですが、そのアニマルに田所のことを重ね合わせて、ファンの間では、田所を『ビースト』と呼んでいるそうです」

清水「さて、ピストンズの方ですが、2回早々に多田原が投球モーションに入った際に股関節を痛めるというアクシデントがありました。そのため、急遽、軍畑（いくさばた）がマウンドに上がりましたが打ち込まれ、ダイバースにリードを許している展開になっています。加藤さん、多田原の怪我が心配ですね」

加藤「そうですね」

向井（声）「加藤さん、向井です」

清水「はい。向井アナウンサー、どうぞ」

（同 球場の通路）

向井はマイクを持ちながら、バインダーを見て、

向井「その、多田原投手ですが、既に病院に到着して検査を受けているそうです。同行しているトレーナーからコーチに入った連絡によりますと、予想以上に症状が悪いとのことですよ」

（同 実況席）

清水「どの程度なのでしょう？」

（同 球場の通路）

向井「精密検査を受けないと詳しいことは、分からないのですが、今期の残り試合の出場は難しいのではないかと、このことです」

（同 実況席）

清水「それは大変なことになりましたね。打球時にバランスを崩した際は、それほどでも無かったように見えました」

（同 球場の通路）

向井「はい。私にもそう見えたのですが、多田原投手本人が、随分前から股関節に違和感があったが、首脳陣には知らせずに騙し

騙しプレーしていたと話しているそうです。
もしかすると、今後の選手生命に影響を及ぼすかも知れないとトレーナーが話していたとのことでした」

（同 実況席）

清水「分かりました。追加の情報がありましたら、また知らせて下さい」

向井（声）「はい。分かりました」

清水「加藤さん。多田原の怪我ですが、思ったよりも悪いようですね」

加藤「そうですね。やはり、違和感があった時点で、トレーナーなり、コーチなりに相談することが必要だったように思います」

清水「そうですね。精密検査の結果を見守りたいと思います」

清水「さあ、球場内にパ・リーグ応援歌『白いボールのファンタジー』が流れます」

♪「白いボールのファンタジー」

○同 ビジター席（ピストンズ…三塁側）

観客１「おい、誰かジェット風船くれないか？」

観客２「ああ、あるよ。ほらっ」

観客２が観客１にジェット風船を投げる。観客１がジェット風船を見る。

観客１「どっちから入れるんだ？ 空気」

観客２「入れりゃあ、分かるよ」

応援歌が終わり、ジェット風船が放たれる。

清水「三塁側から、ピストンズのチームカラー、ピンクのジェット風船が舞います。さあ、ピストンズここから反撃なるか、７回表の攻撃が始まります！」

× × ×

○同 試合後インタビュー

お立ち台。後にスポンサーの看板。

聞き手は、向井アナウンサー。

以降、マイクは喋る方に向ける。

向井「放送席、放送席。それでは最後に勝利監督インタビュー、木更津アポロダイバー」

ズの村西監督です！」

村西がお立ち台に上がる。

村西が帽子を取って、観客の声援に
える。前髪をかき上げて帽子をかぶる。

向井「監督：、ナイスゲームでした」

村西「ありがとうございます」

観客より、拍手。

向井「：今日の試合内容を振り返って、い
かでしたか？」

村西「田所の調子が良かったことに尽きます
ね。打線もいいところで点を取ってくれま
したし」

向井「最後、9回はルーキーの遠野が3人で
締めました」

村西「田所と遠野は、高校の先輩・後輩にな
りますから、大差がついていたとは言え、
先輩の田所が作った試合を壊す訳にはいか
ないと、奮起してくれたんだと思います」

向井「これで、2位と4ゲーム差の首位。来
週からは交流戦が始まります。相手はセ・

リーグ首位のジェントルマンズです。いきなり、セ・パ両リーグの首位同士の戦いになりますか」

村西「手強い相手になりました。それも向このホームの小石川ドームですから、尚更です」

向井「そして、試合は地上波生中継です」

村西「ジャパンCSさんにはお世話になっていたので、申し訳ないところもあるのですが、実力の『パ』を見せつけるいいチャンスだと思っています」

向井「どういった作戦で望みますか？」

村西「とにかく初戦を取って、その勢いのまま、交流戦を戦って行きたいと思います」

向井「初戦が大事ということですね？」

村西「はい。そうです」

向井「それでは、ズバリ、初戦の先発は誰で行きますか？」

村西「ははは。もう予告先発はなくなりまして、だから、こちらの手の内を明かすようなこ

とは言いませんよ」

向井「そこをもう少し：」

村西「ただ、大事な初戦です。それを誰に任せるか。当然、ウチで一番調子のいいピッチャーを立てますよ。言えるのはここまでです」

向井「それでは、交流戦、期待しています！」

村西「ありがとうございます」

向井「以上、勝利監督インタビューでした！」

村西は、歓声に応える。

○ジェントルマンズ社長室（夜）

ジャパンCSを見ているジェントルマンズ球団社長。

社長「…まずいな：」

社長が電話を掛ける。

社長「もしもし、菅藤くんか？ 話があるから来てくれないか？」

○ジェントルマンズ会議室（廊下から部屋へ）
（昼）

案内の職員の後に続いて、廊下をツカ
ツカと歩く鬼頭。職員はドアを指して、

職員「こちらです」

鬼頭はドアをバンと開ける。

菅藤が座っている。

鬼頭「菅藤さん！ ペナントレース中に呼び
出して、何のつもりですか！ もうすぐ交
流戦で、あなたのところと戦うんですよ!?
変な噂が立つようなことはしたくないんで
すよ！」

菅藤は、鬼頭を手で制して、

菅藤「…鬼頭さん。まあ、そうイキリ立たず
に…」

鬼頭はドカッと椅子に座る。

鬼頭「…で、何のご用ですか？」

菅藤「今日は折り行ってお願いがあまして
…」

鬼頭「お願いとは？」

菅藤「ウチとの第一戦目に、そちらは例の新
外国人投手を出すようですが：」

鬼頭「それは、監督が決めることです。私は
知りません」

菅藤「しかし、ピストンズ戦でのインタビュ
ーからすると、その可能性が高いと見てい
ますよ」

鬼頭「：それがどうかしたのですか？」

菅藤「その新外国人投手の呼び方をウチとの
試合だけ『マニー』にして欲しいのですが
：」

鬼頭「菅藤さん、それは出来ません。ジャパ
ンCSさんではきちんと呼んでもらってい
ますし、登録名もそうです。彼との契約書
にも本名を呼ぶこと、と明記してあるんで
すよ」

菅藤「：」

鬼頭「それに、なぜ今になってそんなことを
おっしゃるのですか？」

菅藤「気を悪くしないで聞いて欲しいのです

が、ウチの社長が彼の名前を大日本テレビの中継で流したくない、と言っているんです。あなたも分かるでしょう？」

鬼頭「：確かに、日本人には呼びにくい名前であることは理解できます。ただ、これは彼の名前でし、先ほどの契約のこともあります。ウチの契約内容に口に出すのは、いかがなものかと思いますが？」

菅藤「仕方ないですね：」

鬼頭「ご理解頂けましたか？」

菅藤「：じゃあ、このままですと、そちらとの試合は、雨で中止ということになりそうです。当然ＴＶ中継は無しになりますね：」

鬼頭は手を広げて、

鬼頭「冗談はやめて下さいよ、菅藤さん！ ドームで雨天中止なんてないでしょう？」

菅藤は少し上目遣いで、

菅藤「：いやあ、分かりませんよ：。ウチの主催試合ですからねえ：」

鬼頭は机を叩いて、立ち上がり、

鬼頭「脅す気ですか!？」

菅藤「脅すなんてとんでもない。ただ、可能性についてお話ししているんですよ。晴れていても設備の水漏れとか、そういうのは起こりかねませんからねえ」

鬼頭「…」

菅藤「…」

鬼頭「…わ、分かりました。監督と本人に話をしてみます。ですが、私が出るのはそこまでですよ？」

菅藤「ご協力ありがとうございます。良いお返事を期待しています」

○シエントルマンズGM室（菅藤と鬼頭の電話…昼）

菅藤が電話を取る。

菅藤「はい。菅藤です」

鬼頭（声）「私です。鬼頭です。例の件で」

菅藤「いかがでしたか？」

鬼頭（声）「いかがも何も、監督はカンカンで

すよ。本人も契約違反だと反発しています」

菅藤「…では、試合の方は…」

鬼頭（声）「待ってください。彼は日本に来る前に所属していたチームのオーナーには大変お世話になっていたそうで、オーナーの言うことなら無理も聞けると言っています」

菅藤「オーナーは誰ですか？」

鬼頭（声）「MLBオレゴン・オクトパシーズのペペロ・コーガンという方です」

菅藤「そちらで交渉をお願いできませんか？」

鬼頭（声）「何を図々しいことをおっしゃってるんですか!? それは出来ません！ 元々そちらのお願いで動いているんですよ？ これ以上、ということなら、ドームに雨が降っても結構です！」

菅藤「…分かりました」

○ジェントルマンズ社長室（昼）

菅藤「と、いうことなのですが…。社長、これ以上は難しい…」

社長は菅藤の言葉を遮ぎって、

社長「何を言っとるんだ、菅藤くん！　ウチ
はジェントルマンズだぞ！　そのコーガン
とかいうのと交渉して来たまえ！」

○コーガンとのＴＶ会議（日本は夜）（アメリ
カは早朝）

ＴＶの向こうにコーガン。

菅藤の横に通訳。

菅藤「ハロー、ミスター・コーガン」

コーガン「ハロー」

菅藤「マイネーム・イズ・カントウ」

コーガン「カ、カントウ…？」

菅藤「イエス、カントウ」

コーガン「…オ、オーケー、ミスター・カン
トウ」

※菅藤は「カント（英語で女性器）」の
英語の意味が分からない設定なので、
英語での会話は避けたい。でも通訳が
入るとテンポが悪いので、ここはコー

フィクション劇場 第十二話「名前」

ガンのみに日本語字幕が入る形をとります。

菅藤「何か問題でも？」

コーガン「（英語）い、いや、気にしないで下さい」

菅藤「？」

コーガン「（英語）それで、ご用件は？」

× × ×

菅藤「…ということなのですが、いかがでしょうか？」

コーガン「（英語）彼に働きかけるのは構わないが、契約を曲げてまでそうする理由があるのですか？」

菅藤「そ、それは、特別な理由があるからです」

コーガン「（英語）その特別とは？」

菅藤「…大変言いにくいのですが、彼の名前が日本語で女性の局部を意味する言葉に似ていまして…、放送しにくいと言われているのです」

コーガン「（英語）そうですか…」

コーガン「（英語）でしたら私が彼に働きかけることはしません」

菅藤「なぜですか？」

コーガン「（英語）失礼を承知で申しますが、あなたの名前の『カント』も同じなのでですよ」

菅藤「えっ？」

コーガン「（英語）ですから、正直、あなたの名前をお呼びするのには抵抗があります」

菅藤「…」

コーガン「（英語）…しかし、他の国でどういう意味であろうと、彼の名前は彼の名前で。それは尊重されるものではないのではないのですか？」

菅藤「…」

コーガン「（英語）ですので、このお話は受けられません」

○シエントルマンズ社長室（昼）

社長「ダメだったか…」

菅藤「これでは、仕方ないと思いますが…」

社長「仕方ないでは済まされない！ 強行突

破するんだ！」

菅藤「し、しかし、それは…」

社長「やると言ったらやるんだ！」

○小石川ドーム（交流戦…ナイター）

鬼頭が観戦に来ている。

実況「さあ、今日からプロ野球セ・パ交流戦がスタートします。今日は東京ジェントルマーズと、木更津アポロダイバーズの初戦を小石川ドームよりお送りします」

実況「ダイバーズのスターティング・ラインナップですが…、ピッチャーは…『マニー』…？と表示されていますが…、これは今期加入の新外国人投手のことでしょうか？」
解説「どうやら、そのようですね」

マンコビッチは、その表示を見る。

マンコビッチM（英語）これは…？ 前にG

Mから話は聞いていたけど……。コーガンさんがOKを出したってことなのか？ なら僕に連絡があってもいいのに……」

鬼頭も表示を見て、驚く。

鬼頭M「コーガンさんがOKを出したのか!?

私は何も聞いていないぞ」

マンコビッチは動揺し、マウンドへ向かう。

× × ×

マンコビッチはベンチに降りて、控室へ入っていく。

スコアは3回5失点。

○同 試合後のアポロダイバーズ監督室

村西が監督室に座っている。

鬼頭とマンコビッチが立っている。

村西「鬼頭さん、一体どういうことなのか？ 今回の件、『マニー』と呼ぶことについて、私も彼も何も聞いていないですよ。そうになったならそうだったで、ご連絡頂か

ないと。彼も動揺してしまつて、今日の試合は散々でしたし」

鬼頭「申し訳ない。ただ、私にも連絡がなかったんです。お話していたように、コーガンさんとは向こうの菅藤GMが交渉するこ
とになっていましたし……」

村西「こちらから、確認して頂けなかったのですか？」

鬼頭「その点について、私の落ち度です。本当に申し訳ない」

村西「こういうやり方をされるのであれば、他の選手にも不信感が広がります。以後、気をつけて頂けますか？」

鬼頭「はい。承知しました」

○TVスポーツニュース（夜）

女性アナ「さあ、今日で交流戦の全日程が終了しました」

男性アナ「ダイバースが最下位というのは、意外でしたね。リーグ首位から陥落して、

現在最5位。クライマックスシリーズ進出も苦しい状況になってしまいました。やはり、新外国人投手の不振が一因になっているようですね」

○コンビニ（夜）

スポーツ新聞1面に「マンコビッチ退団か？」の文字。

当然、微妙に見切れている。

コンビニ客「交流戦以降、ずっと締まらなかったからな……。やっぱり、フロックだったのか……」

○TVスポーツニュース（夜）

男性アナ「えー、本日、ダイバーズの村西監督が体調不良を理由に休養に入ることになったとのニュースが入ってきました。今期の残り試合は黒木ヘッドコーチが監督代行として指揮を取ることになります。また、今期加入の新外国人投手が退団することが

球団から発表されました」

女性アナ「ダイバーズは交流戦前は首位でしたが、現在最下位ですから、その責任をとって、ということでしょうか」

男性アナ「そうですね。黒木ヘッドコーチは取材に対し、『わたくしは、これから脇をしめて、残り試合を戦って行きたい』とコメントしています」

女性アナ「ダイバーズの巻き返しに期待したいところですね」

○マンコビッチの自宅（アパート）..単身赴任の設定..夜）

マンコビッチは帰国のための荷造りをしているところに電話が鳴る。

以下、字幕。

マンコビッチ「（英語）はい」

コーガン（声）「（英語）君か？ コーガンだ」

マンコビッチ「（英語）コーガンさん。何のご用ですか？」

コーガン（声）「（英語）君の誤解を解いておきたくてな。私は『マニー』の呼称を許可していない」

マンコビッチ「（英語）しかし、実際には…」

コーガン（声）「（英語）それは聞いているが、私にもその経緯が分からないんだ。だから、それを君に伝えておこうと思ってな」

コーガン（声）「（英語）君がダイバーズを退団することも聞いたよ。…もし、君が気を悪くしていないのであれば、こちらに戻ってプレーしてくれないか？ 君の投球術は日本に行っても確実に上がっていると私は見ている。こちらでも終盤戦でウチはプレーオフ進出がかかっているが、ピッチャーが足りないんだ。私を信じて一緒にプレーしてくれないか？」

マンコビッチ「（英語）…オーナーがそうおっしゃるなら…、喜んで」

ＯＴＶスポーツニュース（夜）

男性アナ「さて、ここからは大リーグ情報です。今季途中で、ダイバーズを退団した新外国人投手ですが、メジャー復帰を果たし、いきなり3勝を挙げ、チームの地区プレーオフ進出に大きく貢献しました」

女性アナ「日本でのペナントレース後半の不振が嘘のようですね」

男性アナ「そうですね」

鬼頭は苦い顔で、TVを見ている。

鬼頭「…」

○ジェントルマンズ社長室（昼）

社長と菅藤。

社長「今年は、クライマックスシリーズには進出できたが、リーグ優勝も日本一も逃した。ウチの目標は最高で日本一、最低でも日本一だ」

菅藤「承知しています」

社長「…ということで、来年の補強も考えていかないといけない時期に入ってきた。特

に、外国人選手だ」

菅藤「はい」

社長「そこで、君には副社長になって大所高所からチームの面倒を見て欲しい」

菅藤は驚く。

菅藤「ちょっと待ってください、社長。私が副社長ですか？ 今年GMになったばかりなんですよ？」

社長「不満か？」

菅藤「いえ、そういう訳ではありませんが、私はまだ現場に近いところで仕事が…」

社長「菅藤くん、気持ちは分かる」

菅藤「では、外国人の獲得などはどうするのですか？」

社長「今回はコーチとスカウトに任せようと思ってる」

菅藤「なぜですか？」

社長「例のコーガンというのから連絡がきてな。君のアメリカでの活動は控えた方がいいと」

菅藤「社長はそんなことを信じたのですか？ 理由は何なのでしょうか？」

社長「君が行けば、そちらの球団のイメージが悪くなるかも知れないと言われたからだ」

菅藤「私の何が？」

社長「…名前だそうだ。君は何も悪くはないのは分かってはいるが、球団のイメージを壊したくないんでな。何せウチはジェントルマンズだ」

菅藤 M「…あの時に言っていた話か…。でも、親が考えてつけてくれた名前だぞ？ それに苗字なんか変えられる訳がないだろう？ 活躍できる、力を発揮できるなら、名前なんてどうでもいいじゃないか…」

E
N
D

（2025年6月15日 初出）

（2025年8月1日 単話アップ）